

第5章 今後の活動計画について

平成19年度においては成熟したシビルエンジニアの活性化に係わる全般について、その必要性や、状況、抱えている問題・課題及びそれへの対応方について広く調査し、その把握に努めた。但し、特に企業などの組織の抱える問題の十分な把握やそれへの対処策については活動の限界から深く追求することは困難と判断し、平成20年度は専ら個人の問題に焦点を当て、その活性化に向けて人材結合支援システムやNPO法人について調査研究を行った。一方で、それらを通じて活性化の大きな前提となる社会資本整備に係わる新たな事業の創生の必要を強く意識し、その実現に向けたマスタープランの作成にトライした。

平成21年度においては、NPO法人に関する調査で浮き彫りにされた諸課題、即ち運営の問題、土木技術者の関与の問題、更にNPO活動を巡る制度や仕組みの問題(ここにはNPO相互の連携やネットワーク化の問題を含む)について更なる調査研究を行うと共に、新たな事業の創生とその展開に係わって、その仕組みの構築を含む具体化に向けて、必要で対処可能な諸作業に取り組むことを考えている。

これらの活動に向けて当小委員会への新たなる人材の参加を期待するところが大きい。

尚、人材結合支援システムについては特に非民間・非ビジネスベースでの充実・整備については、土木学会のしかるべき組織の活動に期待することとしている。